

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900012		
法人名	株式会社西日本介護サービス		
事業所名	グループホームウィズライフ奈良屋		
所在地	福岡県福岡市博多区奈良屋町8-19		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果確定日	平成29年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<ul style="list-style-type: none"> ・博多ならではの近隣行事(どんたく・山笠・ベイサイド花火大会・放生会・灯明ウッチェング・博多おくんち・博多駅イルミネーション)の見物。 ・地域の一人として山笠の炊き出しや公民館行事に積極的に参加している。また、ボランティアや実習生の受け入れを通して地域に開かれたホームを目指している。地域住民の安否確認などの実施。 ・ご利用者が安心して暮らせるよう、医療連携室と連携を図り健康管理・栄養管理・機能訓練に力を入れている。 ・併設事業所であるデイサービスのリハビリやレクリエーションに参加したり、大浴場を利用したりする等柔軟な対応に努めている。 ・グループ間の協力体制がある。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体事業所は株式会社西日本介護サービスでブランドネームのウィズとして、福岡市内を中心に地域密着の介護事業を大々的に展開している。グループホームウィズライフ奈良屋は、オフィスビルの立ち並ぶ大博通りから路地に入り込み、昔の商業地の古い町並みが健在している静かな環境下にある、デイサービスとの複合型の2ユニット事業所である。散歩や買い物に出掛ける事も多く、地域との関わりや交流も深い。地域高齢者の安否確認やゴミ出しや掃除支援をしたり、職員は博多祇園山笠に毎年参加している。ウィズグループ全体で合同の新人研修や定期研修会等によってスキルアップが図られ、グループ内の理学療法士のリハビリの指導のもと、1階のデイサービスの機器等を利用し毎日のリハビリも行われている。系列グループホームの西新・別府と当事業所の3事業所合同で内部研修会や運動会、バスハイク等も行われ協力体制の構築も出来ている。入居者の表情も明るく、事業所内や職員の雰囲気も良い。今後も更に地域と共存した発展が期待出来る事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・管理者は職員の入社時に理念の説明を行い、研修やミーティング時に全員で唱和している。 ・毎週(月)に全体朝礼時に唱和。 ・事務所内、職員ステーションに掲示、設置。	事業所全体の理念に基づき、職員が個人目標を立てている。年4回の個人面談は管理者やチーフマネージャーと行われるが、他関連事業所の管理者とも、職員指名により面談出来る体制もとられている。職員は3カ月毎に個人目標の見直しを行っており、制度も継続3年目で定着し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・男性職員は山笠参加と女性職員は炊き出しに参加させて頂いている。 ・地域サロンにご利用者・職員が参加し、行事のお知らせや健康体操などを実施している。 ・行事時の食材料を地域のお店から購入している。	地域との関わりは深く、自治会にも加入し、近隣の自治会長や民生委員等の方々の運営会議出席や事業所行事に参加がある。奈良屋公民館での地域サロンに入居者と職員が参加し交流を深めながら、地域の方の介護相談も対応している。地域ボランティアが約8名ほど週1回来訪し、皿洗いや洗濯物畳みや入居者との談話や交流が行われ、毎月コーラスのボランティアの来訪もある。幼稚園や小中学校との交流も定期的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ご利用者と地域サロンや地域行事に参加。出向くことを継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご利用者と一緒におやつを毎回提供している。 ・会議時に前回行った行事や防災訓練の様子を写真付きで説明している。 ・会議報告書を作成し不参加のご家族にも送付している。 ・助言頂いた内容は職員間で周知し改善に取り組んでいる。	運営推進会議には自治会長や民生委員や包括支援センターや社会福祉協議会等の参加もあり、最近では地域民生委員も一緒に消防訓練を見たいとの意見で、一緒に消防訓練を見物して貰った事がある。家族には運営会議の報告書を請求書と一緒に送付し周知を図り、年1回の家族懇親会時にはビデオ等で事業所報告等も行っている。	家族に運営推進会議の出席の声掛けを毎回行い、運営推進会議の報告書も送付しているが、出席にはほとんど至っていない。運営推進会議の目的を伝えたり、興味を持つようなテーマを設け、案内書に出欠を求めることで出席を働きかけたり、又、行事との同日開催をしたり、家族の出席が増える取り組みをされる事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・民生委員・社会福祉協議会・包括支援センターの職員を招き連携を深めている。 ・市にもご案内して、1回参加頂く。	地域包括支援センターや社会福祉協議会、博多区保健福祉センター等の担当者の運営推進会議の参加もあり、介護保険の更新時には直接書類を持参し、市区町村との顔なじみの関係の構築は出来ている。事業所の空き状況の報告をしたり、紹介を得たり、地域の高齢者の安否確認や、ゴミ出し等の支援もしており、市区町村との連携体制がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・リスクマネジメント委員会を設置し、定例ミーティング時に職員間で確認している。 ・玄関はオートロックになっているがご利用者が外出を希望される際は付き添い、外出できる体制を整えている。	1階の玄関は電子錠だが、各階への出入りは自由で、1階のデイサービスのレクリエーションに参加される入居者もあり、身体拘束も全く行っていない。ウズの3事業所の代表職員が外部の研修会に参加し、3事業所合同開催で、全職員へ向けて内部への伝達研修を行っている。職員に周知されており、博多区の徘徊ネットワークに登録もしている。	

H28自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部・外部研修、勉強会を実施・参加している。 ・リスクマネジメント委員会を設置し、定例ミーティング時に職員間で確認している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・内部・外部研修、勉強会を実施・参加している。 ・成年後見人活用。	以前、成年後見人制度を活用している入居者が2名いたが、現在は1名の入居者が利用中である。管理者等から、入居当初に家族や入居者に説明しており、毎年の研修会で、職員も大まかな理解は出来ている。パンフレット等も常備されており、必要時には支援できる体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・事前見学して頂き相談、説明している。 ・書面を見て頂きながら説明し、了承を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時やサービス担当者会議、運営推進会議でご意見頂き、改善策を検討している。また、懇親会(年1回)の開催や施設全体の雰囲気や職員の接遇に関してのアンケートを実施。	本社から家族に対して、年1回のアンケート、半年に1回のハガキ調査を送付し、職員や事業所に対しての意見を聞き取っている。結果は本社で集計しグラフ化して事業所へ送付され、意見の改善を検討している。地震時等に食器棚の転倒が懸念されていた為、突っ張り棒で対応したり、湿度計があった方が良いのではとの意見から翌日に湿度計を設置するなど、意見や要望にはすぐ対応し反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は毎日の申し送りに参加し意見交換や提案を聞いている。 ・管理者やリーダーは一般職と個別面談を実施しているので直接意見を聞く機会がある。	個人面談が年4回あり、面談には管理職以上の人や系列他事業所の管理者を選ぶ事も可能で、いいにくい事も話せる環境が整えられている。月1回のミーティングや週1回の朝礼等で意見提案する事もできる。職員による地域高齢者の安否確認も、事業所全体でサポート体制が取られる様になり、安否確認・ゴミ出し・掃除支援も行うことで地域との関わりが深まるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・自己目標を設定しそれに伴う面談や人事考課でキャリアと向上心をもって働けるような体制作り。 ・グループ内でやる気を促す活動を実施。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・募集、採用にあたっては制限はなく採用時は職場体験又は館内を案内しホーム内の様子を見て頂いている。 ・職員の特性を生かして先輩職員の指導のもと役割を担っている。休日希望を取り働きやすい環境作りに取り組んでいる。	20～60歳代の職員が就労し、本社でウィズグループ合同の新人研修がカリキュラムに沿って行われたり、定期的な研修も開催されている。資格取得に向けて取り組み易い環境が整えられ、シフトも協力して調整されている。休憩時間やスタッフルームなど設置されており、労働環境も配慮されていた。	

H28自己・外部評価表(ウイズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・外部研修や内部研修に参加し、ご利用者の尊厳について確認している。 ・社内全体でマナーチェックを実施し、その都度ご指摘頂いた内容については職員へ伝達しその後改善を行っている。	管理者が「博多区権利擁護部会」の研修会に出席し、内部に伝達研修を行ったり、ケアマネジャーの研修会の資料を配布し伝達している。ウイズグループのマナーチェック項目を、事業所内で確認したり、新人職員は2～3カ月毎の会議時にマナーチェック等を行い、マナーの向上と共に、事業所内の人権教育や啓発活動につなげている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人事考課にて全職員の現状を把握し、社内全体の定期研修制度を実施している。その他にも事業所内で定期的に勉強会を実施し、外部研修にも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修で他事業所と交流の機会をもち、ネットワークの構築に努めている。 ・社内でグループホーム課会議開催し連携強化を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談後にご本人と面会を行いご要望を伺っている。ご家族にも聞き取りを行いながら、信頼関係が少しでも早く構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族と綿密に話をする場を設け、ホームの理念・指針をきちんとお伝えしている。 ・入居待機者には定期的に電話連絡を行い現状の確認や不安解消に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談の際に必要なとしている支援を見極め、様々なサービスのご提案を行っている。また、ホーム内を見学したりお食事を召し上がって頂くことで安心、納得して頂けるような支援に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の生活歴を把握し、得意なことを活かし支え合いながら理念に基づいた[ハンドワーク]の精神を主としている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時やサービス担当者会議の際に日頃の様子や主治医からの意見も併せ報告している。日頃から情報共有することでご利用者を共に支えていく関係を築いている。 ・年1回の懇親会を開催している。		

H28自己・外部評価表(ウイズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人達と関わりを継続している(はつらつサロン、近隣商店街)	近隣の散歩や、コンビニ等への買い物に職員同行で行く事も多く、馴染みの商店街にも出掛けている。知人の訪問も多く、馴染みの関係の継続支援は出来ている。「ドリカムプラン」(家族や入居者が諦めていた夢)の取り組みを行ない、職員同行で、介護5の方がご自宅で仏壇参りをしたり、別の方は有田焼をもう一度したいとの思いで、リハビリの意欲にも繋げ、有田町に行き陶器の湯呑づくりを実現した。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々の生活において関係性を把握し食事の準備や外出時、また行事時等ご利用者同士のの関わりを支援している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・お近くに来られた際はいつでもお顔を見せてほしい等お伝えしている。ご家族関係の方から入居ご依頼もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の関わりの中でご本人又はご家族からのアセスメントを伺い、想いや希望を取り入れたケアの実践を行っている(ドリカムプラン)	入居時は管理者が基本情報等を聞き取った事項を、計画担当者に渡し、計画作成担当者が包括自立支援プログラムでアセスメント表や計画を作成している。意思を伝える事が出来ない入居者には、家族の要望を聞き取り、日頃の様子等を職員や家族と話して、意向を確認する。アセスメントは3カ月や6カ月で見直しを行い、青ペンで追記しており、本人本意の意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族に伺いながら情報収集を行い、職員全員が共有の認識として把握に努める。 ・入居後はケアを通して得た情報を記録している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の情報を記録し、申し送り書類を活用し情報共有に努めている。また、アセスメント内容を元にケアカンファレンスを行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の関わりからアセスメントをとり、ケアカンファレンスやサービス担当者会議で介護計画を作成している。 ・ご家族に意見を伺い反映するように作成している。	毎月の評価は担当職員が行ない、3カ月毎にケアマネジャーが実施記録等で評価している。医師にも照会状で確認して、担当者会議を行い、介護計画の見直しや作成が定期的になされている。毎月1回生活状況レポートとして、リハビリ計画への参加時の状況や様子を写真付きで記入し、請求書と一緒に家族に送付している。	

H28自己・外部評価表(ウイズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の状況を記録し、気付き等申し送りノートで情報共有に努めている。 ・ケアカンファレンス時に介護計画の見直しを職員間で行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の対応は基本行い、ご本人・ご家族からのご依頼は介護保険以外でも対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域活動・行事に参加。また、地域ボランティアが炊事、洗濯たみ、折り紙、コーラス等頻繁に来て頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人又はご家族の希望でかかりつけ医が決定、常に連携し情報共有している。 ・協力医による往診で体調変化に迅速に対応できる体制を整えている。	入居前からの主治医の受診も可能で、家族送迎で受診時は、バイタル等の情報を提供している。提携医は月2回の往診で緊急時も24時間対応可能で、ウイズグループの訪問看護師による週1回の健康観察もある。受診時の状況は、家族に聞き取ったり、提携医の情報を伝えて、受診記録に記入し、申し送り等で職員にも情報の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションに日頃の健康観察や状況を報告し助言頂いている。 ・併設のデイサービスの看護師と連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、面会を行い病状の確認や病院側の専門職へ早期退院に向けての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居契約時、介護計画更新・変更時終末期のご意向の確認を行い、重度化指針についてのご家族へ説明・同意を得ている。	開設以降、事業所で5名の看取りを行っている。入居時に看取りについて説明し、重度化指針もあり、重度化した時に医師が家族も含めて説明し、再度、看取りについて確認している。看取りの書類もあり、終末期のプランを立てて看取りを行っており、病院看護師や訪問看護師による点滴等も可能である。終末期プランを実施したウイズの他事業所のデスクカンファレンスに参加し、その後、内部に伝達研修や勉強会も実施し、看取りを行っている。	

H28自己・外部評価表(ウイズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを作成し、職員間で確認している。 ・ホーム内で研修を行い、急変時や事故発生時対応、AED使用方法などを学ぶ。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回日中、夜間を想定した火災避難訓練実施。 ・ウイズグループで9/1は防災の日としている。地震・風水害・積雪の訓練実施。	火災避難訓練計画書を作成して博多署に提出し、避難訓練を実施し、その後は反省会を行いマニュアルも変更している。地域係りの担当職員が、2ヶ月に1回の奈良屋校区の防災の集まりや、年1回の避難訓練に参加している。非常持ち出し袋を各階に設置して、毎月確認し、その中に入居者のフェースシートも入れており、食料も入居者分の1食分を確保している。毎年9月1日の防災の日は系列の全事業所での避難訓練と、避難食によるおやつや食事を提供している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人の尊厳を守り、プライバシーに配慮している。 ・個人情報やプライバシーについての研修を職員は必須で受講している。	個人情報保護等は、入社時と年2回、本社等で研修会を行っている。月1回のミーティング時に管理者から、人権に関する事も伝えており、写真や実施記録等も、その都度、使用目的を伝え同意を得ている。個人の尊重や接遇は入社時の本社でも研修会があり、職員間でもその都度、声掛け等は注意し合い、尊厳を重視した対応や介護をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活の中で、ご利用者の声にみみを傾け、意思表示が困難な方には、表情を読み取る等、表現できる環境を整えるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご希望に沿って、一人一人のペースを大切に支援に努めている。 ・外出レクや休息など、時々合わせた対応を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝の整容を行い、生活習慣の一部として整容を行っている。化粧やひげ剃り、服装や髪形も催事以外でも身なりを整える。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の盛り付けをして頂いたり、食後の後片付けをして頂いている。 ・音楽をかけリラックスした雰囲気でお食事を楽しんで頂けるような環境作りを行っている。	2週間ごとに、管理栄養士作成の調理法も明記されたメニューが届くほか、毎日新鮮な副菜の食材が配達される。職員が炊飯と、調理を行い、ミキサー食等の治療食にも対応可能である。入居者も炒めたり、盛り付けや片付けや洗い物を手伝っている。1日は赤飯で、入居者の誕生日当日にはケーキを発注し祝っている。入居者に食べたい物を聞き取り、食事をビュッフェスタイルにしたり、おやつレクリエーションとして取り入れ、外食は月1回、スイーツを食べに行く事も月2～3回あり、入居者の楽しみとなっている。	

H28自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士によるバランスのとれた食事メニュー。 ・食分量や水分量を個別に把握し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご利用者の状態に合わせて毎食後口腔ケアを実施して清潔に努めている。夜間は洗浄剤使用。 ・ニーズに応じて歯科医と連携を図る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・日々の関わりや排泄表を元に排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら自力での排泄を支援している。 ・トイレでの排泄を心がけている。	全員分の排泄チェック表があり、職員の見守りや提案で、入居時にリハパンツとパット使用の方も、日中は布パンツとパットに、夜間はリハパンツとパット使用に改善している。車椅子でトイレで2人介助の方も、リハビリで1人介助可能となる。オムツ使用の方はおらず、車椅子の方も食事の前後等でのトイレ誘導等リハパンツとパット使用で対応出来る様になり、家族の経費削減にもなっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の体操やリハビリでぜん動運動の促進に努めている。 ・排泄状況の把握を行い、必要時に水分提供や食物繊維を提供している。(オリゴ糖・ブルーン)		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・日々の体調に合わせて入浴、清拭を取り組み合わせながら清潔保持に努めている。 ・1階の大浴場を利用し普段とは違う環境での入浴を実施。	週3回の入浴だが、希望で回数や時間も相談で対応可能で、個浴で毎回お湯を入替えし、好みの湯温で入浴でき、季節のゆず等や入浴剤も使用されている。入浴日以外は足浴し、気分転換に1階の大浴場も利用できる。入浴を嫌がられる方には、散歩後に「寒いからお風呂に」と促したり、人を変えて声掛けし、それでも入浴出来ない時は清拭で対応している。皮膚観察し、保湿剤等の塗布を、マッサージやコミュニケーションも取りながら行なっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動性を向上する事で夜間良眠に繋がる様努めている。 ・眠れない方にホットミルクを提供し安眠に繋げている、個々に合わせて日中の休息も行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬剤情報を綴り全職員が確認できる様にしている。 ・与薬時は複数の職員で名前、日付、時間の確認を行い、服薬後の空袋で再確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個別に役割を持って頂いている。 ・趣味や特技、日課など楽しみとすることを介護計画に掲げて実施している。		

H28自己・外部評価表(ウィズライフ奈良屋)1.4

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の散歩や買い物その他、地域行事や誕生日等、普段行けない場所へもご家族等も協力を得ながら実施している。 ・グループ内他事業所と毎月外出レクを企画、実施している。 	近隣への散歩や買い物に行く事も多く、地域係りの担当職員が博多祇園山笠に参加しており、博多どんたく・おくんちの祭り等を応援や見物したり、花見に行く事も多い。ウィズグループの3事業所合同で、年1回は貸し切りバスで日帰り旅行や、百道浜体育館で運動会を行ったり、外出は多く、車椅子の方も一緒に楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭持参されている方もいらしゃるが、基本立替で購入している。 ・金銭を持参していることで安心されるので制限はせず、ご自分が欲しい物を購入して頂いている。 		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の制限はしていないのでご自由に使用してもらっている。また、お手紙はハガキ等でやり取りの支援を行っている。 		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルソファの配置はご利用者がゆっくり過ごせる環境作りに努め、温湿度計で適温を調整している。 ・なるべく暗い環境にならないように、日中はカーテンを明け換気と明るい雰囲気。夜間は照明を落としゆったりした空間作りを行っている。 	リビングを囲って居室が配置されており、スタッフルームから、明るく広いリビングや各居室ドアが概ね一望され職員の見守りもできる。動線もスムーズに出来る様に工夫もされており、ゆったりしたソファで、談話やテレビを見て過ごされている。壁には、入居者とボランティアと一緒に作成した折り紙の作品等が飾られている。入居者の写真は人生の大先輩である事を考慮し掲示していないが、自室内に飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビング内数か所にソファを設置し、仲良いご利用者同士で話す等くつろげる環境作りに努めている。 		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には馴染みの家具やご家族の写真を飾り居心地の良い空間を提供できるように努めている。また、寝心地も考慮し慣れた床に直接お布団を敷いて使用される方もいらしゃる。 	居室内は電動ベットやカーテンやエアコンが設置されており、持ち込みは自由である。桐箆箆やテーブル、椅子などが置かれたり、家族との思い出の写真や仏壇やミシンや大正琴等が設置され、居心地の良い部屋づくりがされている。職員は室内の換気に気をつけたり、オムツやリハパンツ等が見えない様にバスタオルを掛けて目隠しし、目に付かない様に配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室前に表札や写真を飾り、ご自分の部屋だと分かるようにしている。 ・各所に手すりや椅子を設置し、自立した生活ができるようにしている。 		